

2024年1月29日

〒803-8501 北九州市小倉北区内 1-1

北九州市長 武内 和久 様

〒806-0033 北九州市八幡西区岡田町 12-12-505

九州産業遺産研究会 会長 時里 奉明



〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町一丁目7番2号

特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会 理事長 宇野 慎敏



初代門司駅舎遺構保存要望書

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

私どもは九州に活動拠点を置き、ともに歴史文化を守ることを大切に考える研究組織ですが、先日の現地説明会や各種報道などにより採り上げられた、北九州市門司区の JR 門司港駅の近接地で発掘された初代門司駅舎遺構、とりわけ機関車庫と推定される基礎部を含めた物流関係遺構について是非とも保存して頂きたく、ここに要望書を提出いたします。

御承知の通り、九州における鉄道の開設は、民間企業である九州鉄道会社が、福岡県最北端の門司駅から熊本県の八代駅までの区間の建設を計画したことに始まり、その中でも門司駅舎は第一工区として整備の上、明治 24 (1891) 年 4 月 1 日に開業致しました。同月 23 日には会社本社が博多から門司地域に移転し、この時に建設された建物は国登録有形文化財となり、現在九州鉄道記念館として保存の上、観光に大いに活用されています。今回出現した機関車庫遺構をはじめとする諸施設は、初代門司駅舎の機能を担うとともに、物流の拠点として発展した門司の始まりを示す遺構として非常に重要な意味を持ち、近代日本の発展を伝える、九州最高級の記念碑的遺構であると確信します。

同様の遺構として民間所有の遺構である新橋停車場跡及び高輪築堤跡が国の史跡に指定され、まちづくりと両立しながら整備される予定であることは既にご承知の通りかと存じます。

この遺構を含めた北九州近代化の生き証人が、「門司港地域複合公共施設整備事業」における建設に伴って喪われてしまうことを私どもは懸念しております。

日々の営みの中で開発行為が行われることは必要なことではありますが、殊に門司地域は平成 20 (2008) 年に策定された「門司港レトロ観光まちづくりプラン」に基づいて「新たな観光拠点の整備等に取り組み、滞在型の観光地づくりを進めていく」ことを柱に据えている地域であります。今回発見された遺構を観光地整備の一部に加えることによって、持続可能なまちづくりを醸成するきっかけにもなるかと存じます。

歴史的、文化的、社会的に極めて意義のある当遺構群がこれ以上毀損されることなく、貴市の貴重な遺産として可能な限り保存し、まちづくり整備と観光との両立を図る方策を採って頂きたく、緊急に要望いたします。同時に、これら遺構群の十全なる調査が行われ、その記録が市民に公表されますよう、併せて要望いたします。

敬具